

令和6年度 第2回生野区区政会議 まちの未来部会

1 開催日時

令和6年12月16日（月） 19時00分～

2 開催場所

生野区役所 6階 604・605 会議室

3 出席者

（区政会議委員）6名

平島委員、須郷委員、島本委員、廣川委員、塚本委員、山納委員

（その他関係者）1名

西村委員

（生野区役所）6名

筋原生野区長、大川企画総務課長、森区政推進担当課長、木村地域まちづくり課長、川楠まちづくり推進担当課長、武田企画総務課長代理

4 委員に意見を求めた事項

（1）令和7年度生野区の取組（案）について

（2）その他

- ・ 会議資料 令和7年度生野区の取組（案）について
- ・ 会議資料 意見交換の議題テーマ
- ・ 参考資料1 「生野区グローバルタウン物語」プロジェクト説明資料
- ・ 参考資料2 事前にいただいたご質問と区の考え方、対応
- ・ 参考資料3 主なご意見等と区の考え方、対応
（令和6年度 第1回生野区区政会議 全体会）
- ・ 参考資料4 令和6年度生野区運営方針アウトカム指標改定

5 会議内容

○森区政推進担当課長

それでは、皆様、お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまから令和6年度第2回生野区区政会議まちの未来部会を開催させていただきます。本日はご多用のところ、ご出席いただきありがとうございます。私は、事務局の生野区役所企画総務課の森でございます。どうぞよろしくお願いいたします。すみません、着座にて進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、最初に本日ご出席の委員の皆様をご紹介します。順に

お呼びをいたしますので、お名前を呼ばれた際には、お手数ですがご起立のほうをお願いいたします。

平島委員でございます。

○平島委員

よろしくお願いします。

○森区政推進担当課長

須郷委員でございます。

○須郷委員

こんばんは、どうぞよろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

島本委員でございます。

○島本委員

こんばんは、よろしくお願いします。

○森区政推進担当課長

廣川委員でございます。

○廣川部会長

よろしくお願いします。

○森区政推進担当課長

塚本委員でございます。

○塚本副部会長

こんばんは、よろしくお願いします。

○森区政推進担当課長

山納委員でございます。

○山納委員

よろしくお願いします。

○森区政推進担当課長

本日、栗津委員、中村（寛）委員、倉本委員におかれましては、所用によりご欠席となっております。

本日の会議は、委員定数9名に対し、6名の出席がございます。定数の2分の1以上の出席がございますので、有効に成立していることをご報告させていただきます。

そして、本日の傍聴者は1名となっております。

また、本日は、他の部会からオブザーバーとして出席いただいている委員の方がおられますので、ご紹介させていただきます。

こどもの未来部会の西村委員でございます。

○西村委員

お願いいたします。

○森区政推進担当課長

オブザーバーの方につきましては、部会長から求めがあった場合にご発言をいただけることになっておりますので、よろしくお願いいたします。

また、区政会議に関する本市の規則によりまして、本日出席いただいた委員の皆さんのお名前、発言内容は公開されます。事務局におきまして議事録を作成し、後日、区のホームページなどで公開させていただくほか、会議の様子を収録いたしまして、後日、YouTube において配信し、どなたでも閲覧いただけるような形にしていまいりますので、録音や撮影について、ご了承のほどよろしくお願いいたします。

さて、本日のまちの未来部会では、主にまちの魅力や地域活性化等の分野について、令和6年度の生野区の取組を振り返りまして、次年度の取組につなげていくため、委員の皆様からご意見やご議論をお願いしたいと考えております。

本日の会議でいただきましたご意見につきましては、後日開催の全体会の場で報告いただき、全ての委員の皆様にも共有いただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の資料についてご説明いたします。「令和6年度第2回生野区政会議まちの未来部会 次第」をご覧ください。

まず、会議資料といたしまして、事前にお送りしております「令和7年度生野区の取組(案)について」という A4 の資料でございます。

次に、会議資料としまして、「意見交換の議題テーマ」という資料がございます。

次に、参考資料1としまして、『生野区グローバルタウン物語』プロジェクト説明資料」がございます。

次に、参考資料2としまして、「事前にいただいたご質問等と区の考え方、対応」がございます。

次に、参考資料3としまして、前回7月に開催いたしました全体会でいただきました、「主なご意見等と区の考え方、対応」という資料でございます。

次に、参考資料4としまして、「令和6年度生野区運営方針アウトカム指標改定」という資料でございます。

資料がお揃いでない方は、挙手いただければ事務局からお持ちをいたします。

また、資料とは別に、区政会議まちの未来部会運営に関する区政会議委員アンケートを配付しております。このアンケートは毎年行うものでございまして、本市の区政会議運営をよりよくしていくために委員の皆様からご意見を頂戴するものとなっております。部会終了後にご回答を回収させていただければと思いますので、ご協力のほうをよろしくお願いいたします。

それでは、ここからの議事進行につきましては、廣川部会長にお願いしたいと思います。廣川部会長、よろしくお願いいたします。

○廣川部会長

部会長の廣川です。ただいまから、令和6年度第2回まちの未来部会を開催します。区政会議では、地域でまちづくり活動を実際に進めている私たちが行政とともに生野区の課題解決のため、どう取り組むべきかを建設的に考える、そういう趣旨の会議となっております。よって、委員の皆様の個人の感想ではなく、生野区全体を主体的に運営する見方に立って、積極的なご発言をお願いできればと思います。

それでは、開催にあたりまして、筋原区長からご挨拶をよろしくお願いいたします。

○筋原区長

皆さん、こんばんは。生野区長の筋原です。

本日は、お忙しい中、またお寒い中、生野区区政会議まちの未来部会にご出席いただき誠にありがとうございます。

本日は、令和7年度の取組(案)についてご説明をさせていただきますので、ぜひ忌憚のないご意見をいただきまして、よりよい区政運営につなげていきたいと思っております。

冒頭に私のほうから先ほど申し上げていた、『生野区グローバルタウン物語プロジェクト』について、ちょっとお時間をいただきご説明をさせていただきますと思います。お話しする内容については、参考資料1にも書いていますが、口頭でご説明させていただきます。

皆さんご承知のように、生野区は今、住民の約22%、5人に1人が外国籍住民という、都市部では日本で最も外国人の住民比率が高いまちです。住民の国籍の数も、今は約80か国となっております。大阪コリアタウンに今200万人来ていただいておりますけれども、大阪コリアタウンから今やグローバルタウンという状態でございます。特にコロナ収束後は、1人で暮らしておられた外国籍住民の方がご家族を呼び寄せておられるようで、今、生野区では、日本語を話せないこどもさん、それから、ご家族の中で誰も日本語を話せないというご家庭が急増しているという状態です。大阪市の教育委員会も、小学校も中学校も、日本語の教育であるとか、母語でのサポートのシステムは持っているのですが、サポートが必要なこどもさんの数が増えすぎて追いつかないという状態になってきております。これからもどんどん増えてくるので、教育委員会や区役所などの行政だけではなかなか対応が難しい状況です。生野区でいくつかの支援機関、NPO法人等が、外国ルーツの児童たちに対して、日本語の指導であるとか、母語でのサポートであるとか、そういう教育支援や生活相談にも乗るといような、そういうサポート活動をされておられます。ただ、NPO法人が多いので、いろいろなと

ころの助成金をとって、工夫してやっておられるんですけども、財源的に十分でなくて、やはりこういう活動を支えるためのファンドというか、基金のようなものをこれから作っていく必要があるんじゃないかなと思います。これがプロジェクトの1つですね。

それから、日本語が話せないとなると、勉強についていけなくなるわけですね。そうすると、進学が難しい。引いては、希望する仕事に就くことも難しくなる。仕事に就けないとなると、やっぱり貧困から犯罪に巻き込まれてしまう可能性が高くなる。海外では、これで治安悪化ということが世界中である種典型的な形になっているわけですけども、生野区でこういうまちの安全安心が危なくなるというような事態は、絶対に避けていかないといけないと思っています。ですので、先ほど申し上げたような基金も作りながら、外国ルーツのこどもたちへの教育支援・生活相談など、そういうものを手厚くしていくということも必要で、また、学歴があってもなくても、どの国の人でも仕事に就けるまちであるということが非常に大事だと思っているんですね。生野区の場合は、どういう仕事があるかという、やっぱりものづくりのまちですので、ものづくり企業と飲食ですね。これで大体、生野区の総売上の8割以上を占めておりますので、ものづくりと飲食が元気で、しっかり稼いで、そしてお金が生み出される状態であるということが必要だと思っています。

ものづくりについては、ものづくりの企業さんというのは、技術力はあるわけですけども、下請け・孫請けの時代が長くて、新しい製品のアイデアを出すのがなかなか難しいとおっしゃるところもあります。一方で、デザイナーとかクリエイターの方は、アイデアはあるんですけど形にできないというようなことがあって、これら2つをコラボして新しい製品を作るという、「生野ものづくりタウン事業」という取組を去年から始めております。この取組に参加していただいた企業さんの中には、売り上げが倍増したというような状況も生まれております。もちろん、この取組によってだけではなく、その会社の頑張りのおかげなんです。こういう形で、新しいものづくりの収益の柱を立てて、外国ルーツの方も雇用していただけるようにするということと、外国ルーツの方は飲食店で生計を立てるというパターンも多いので、今、いくのパークで「万国夜市」というものを定例的にやっているわけですけども、ここで外国ルーツの方も対象に飲食スタートセミナーというものを区役所も一緒に始めました。実際にそのセミナーに行ってもらえたら、その外国ルーツの方にも出店の練習のために「万国夜市」、それから大阪コリアタウンも、今夕方5時で閉まってしまうので、これもまた定例的に夜市場（ヤシジャン）という夜市を大阪コリアタウンでもこれから始めていきたいということをおっしゃっていただけますので、そういう場所で屋台の出店から練習して、お店の出店にもつなげていくというような形をや

っていきたいと思っています。こういう取組をして目指すところは、いわゆる夜市ですね。台湾の夜市とか、韓国の夜市が有名ですけど、生野区の場合は、鶴橋の国際マーケットなんかも夜市の雰囲気がすごく濃厚に残っていますので、そういう海外の風情のある夜市の感じが、生野区では合うんじゃないかなと思って、これを常設でできる場所を探して、常設の夜市を作っていくというところまでを目標にして、この「『グローバルタウン物語』プロジェクト」というのを始めたいと思っています。常設の場所については、今までの区政会議でも、委員の方から具体的には近鉄鶴橋駅の東口を出たところの高架下が、長年空いている場所なので、そこを有効活用する必要があるんじゃないかという意見もいただいておりますので、そういう場所も視野に入れて、常設の夜市までつなげていけたらと思っています。これが、これからの生野区の活性化の方向性ですね。これをやろうとしている一方で、YouTuber、今小学生が一番になりたいという人気の職業ですけど、242万人フォロワーがいる関西でも日本でも有数のYouTuberで、ジョーブログというブログがあって、そこのジョーさんという方が生野区出身でして、ジョーさんと連携協定を結んで、生野区振興・親善・観光大使というのを受けていただきました。一緒にこの「『生野区グローバルタウン物語』プロジェクト」をやりたいということを申し上げたところ、非常に賛同をいただいて、先日、1,000万円の寄付を財源としていただきました。それで、今申し上げたような外国ルーツのこどもたちの支援のための基金作りであるとか、あるいはものづくり企業や飲食店の活性化のための資金にあてて、来年から具体的にこの「『生野区グローバルタウン物語』プロジェクト」というのを事業として始めていきたいと思っています。これが今の生野区のトピックの状態でございます。ただ、一方で、安全・安心ということでは、不適法な入国や滞在には、厳しい態度で対処していかないといけない。それでまちの安全・安心を確保していかないといけないと思っております。このために今、生野警察署、生野消防署、生野区役所などの行政側でも、不適法な入国や滞在を許さないようにということでは連携を深めて情報共有を常に行っているところでございます。また、大阪出入国在留管理局とも連携して、情報共有と協議をこれからも定期的に行っていく、まちの安全・安心はしっかりと守っていくということに努めたいと思っています。ですので、今日のテーマも「『生野区グローバルタウン物語』プロジェクト」についてと書いていますけど、新しい外国籍住民の方が急増されていることと、また一方で、長年生野区でお住まいの外国籍住民の方については、ご高齢になってこられて、在留手続きもなかなかおひとりでは難しくなっているというような問題も起こってきておりますので、長年お住まいの外国籍住民の方と、今増えている新しい外国籍住民の方、両方の観点から各地域での状況であるとか、また、ご意見であるとかを今日は一つのテーマとして、お聞かせいただけたらな

と思っています。ぜひ、皆様のご意見をいただきまして、よりより区政運営につなげていきますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○廣川部会長

ありがとうございました。

それでは、早速、議事に入りたいと思いますが、限られた時間の中で円滑に意見交換を進めていただけるように、ここからは学識委員の山納委員に会議の進行をお願いしたいと思います。

それでは、山納委員、よろしくお願いいたします。

○山納委員

廣川部会長からご指名いただきました山納でございます。これから、皆様の意見交換のお手伝いをさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、会議の次第に沿いまして、「議事1 令和7年度生野区の取組（案）について」区役所から説明をお願いいたします。

○武田企画総務課長代理

企画総務課の武田と申します。

令和7年度生野区の取組（案）について、ご説明させていただきます。着座にて説明させていただきます。事前に配付しております「令和7年度生野区の取組（案）について」をご覧ください。令和7年度生野区の取組（案）ですが、令和6年度までの運営方針の様式は、文字数が多く分かりづらい点もございましたので、より見やすくなるよう、令和7年度より様式を変更させていただいております。ページをめくっていただきますと、めざす状態、課題認識、主な戦略、アウトカム指標、令和6年度の取組実績、令和7年度の主な取組・予算(案)について、それぞれを見開き2ページに戦略ごとにまとめさせていただいております。基本的には令和6年度に引き続き、各種取組を行っていきますが、令和7年度に強化を図る分野や、新規事業を盛り込んだ内容になっています。

本日のまちの未来部会ですが、区政会議委員の皆様の意見交換の時間を十分に確保したいため、新規事業や拡充した事業を中心に説明させていただきます。

それでは、まちの未来部会の取組についてご説明いたします。資料の11ページをご覧ください。経営課題2「にぎわいとiroどろ豊かな魅力のあるまち」戦略2-1「リノベーションまちづくり」についてご説明させていただきます。2の課題認識としまして、万博を契機にしたまちの活性化、ものづくり産業の振興、学校跡地活用、空き家等の利活用、移動手段の確保について取組を進めていく必要がございます。4のアウトカム指標ですが、令和6年度の測定方法について修正していますが、こちらは最後にまとめて説明させていただきます。

12ページのほうをご覧ください。5の令和6年度8月時点の取組実績です。

【万博を契機にしたまちの活性化】ですが、『EXPO いくのヒートアッププロジ

ェクト』プロモーション事業」として、万博開催 200 日前に合わせて、まちごと万博「プレ EXPO いくの」を実施予定としています。「食を通じた国際文化交流事業」について、再掲と記載していますが、資料を少し戻っていただきまして、10 ページをご覧ください。5 の令和 6 年度 of 取組実績、上から 2 つ目の、【外国につながる住民が安心して暮らせる環境づくり】の下から 2 つ目をご覧ください。

「食を通じた国際文化交流事業『EXPO いくの万博夜市～韓国フェア～』」を 7 月 27 日～28 日に開催しています。またページめくっていただきまして、12 ページをご覧ください。令和 6 年度 of 取組実績の【ものづくり生野のポテンシャル】ですが、生野区のものづくり企業とクリエイターをマッチングして商品開発することで、地域の活性化を目指す、「生野ものづくりタウン事業」ですが、令和 6 年度はものづくり企業から 5 社参加しています。ものづくり企業への取材、勉強会を 4 月～6 月に開催し、ものづくり企業とマッチング希望のクリエイターの募集も終了しておりまして、現在は新製品の開発に協働して取り組んでいます。

【持続可能な地域公共交通の推進】ですが、シェアサイクルの推進については、昨年 4 月から天王寺区と協働して、HUBchari 大阪バイクシェア連合体とポート増設等のための連携協定を締結しました。また、昨年 11 月からは市内 24 区で利用普及促進に向けた共同事業ですが、シェアサイクル事業を実施している 3 社と開始しています。その結果、ポート数については、当初の 21 箇所から 46 箇所が増えていきます。6 の令和 7 年度 of 主な取組・予算(案)ですが、行政と地域が一体となって、万博機運を盛り上げ、万博への誘客を目指し、万博開催後も地域の活性化を図ります「生野ものづくりタウン事業」では、これまでの参加企業のフォローアップ、ネットワーク確立に向けた取組を強化します。既に活用を開始している学校跡地について、経年劣化が生じている校舎等の改修工事を実施します。

13 ページをご覧ください。戦略 2-2 「生野区シティプロモーション」について説明させていただきます。2 の課題認識ですが、発掘・浸透されていないまちの魅力や、生野区に來たい・住みたいと思うような情報発信について、まだまだ十分でないということが挙げられます。4 のアウトカム指標についてですが、こちらでも変更していますので、最後にまとめて説明をさせていただきます。

14 ページをご覧ください。令和 6 年度 8 月末時点 of 取組実績です。【生野区 of 魅力世界 of 魅力に】ですが、公民連携を活用し、大阪プロレスさん、レッドハリケーンズ大阪さん、生野区住みます芸人のムジンゾウさんに、特殊詐欺・交通ルール・防災などの動画にご出演いただきしており、区役所 1 階 of モニターや、広報いくの、SNS 等で情報発信しています。令和 7 年度 of 主な取組予算(案)ですが、右側に写真を掲載していますが、生野区出身 of Youtuber のジョーブログと令和 6 年 10 月に連携協定を締結するとともに、ジョーブログ of ジョー氏を生野区振

興・親善・観光大使に任命しています。公民連携を活用し、地域課題の解決や地域の魅力についても効果的に情報を発信していきます。

19 ページをご覧ください。戦略4-1「まちづくり協議会による自律的な地域運営の促進」について、ご説明させていただきます。2の課題認識ですが、コミュニティの醸成、災害対応、高齢者の見守りなど、まちづくり協議会に求められる役割は一層大きくなっているため、地域の特色、実情を踏まえて、より効果的な支援が必要であります。まちづくり協議会の意義や、求められる機能について、理解を促進するための働きかけや、情報発信を行っていく必要があります。

20 ページをご覧ください。令和6年度8月末時点の取組実績です。地域活動協議会、活動補助金の補助率について令和6年度から、75%から100%に変更していますが、まちづくり協議会との補助金等運営にかかる意見交換会を5地域で開催しています。まちづくり協議会と日本語学校との交流については、4地域で開催されております。夏祭りなどのイベントにおいて、日本語学校の生徒たちの出身国の料理を屋台で提供したり、日本の浴衣を着て盆踊り踊ってもらったり、様々な交流が進んでいます。6の令和7年度の主な取組・予算(案)ですが、令和6年度に引き続き、地域活動協議会補助金を19地域に交付し、まちづくり協議会に効果的な支援ができるよう、まちづくりセンターに委託することとしています。

配付資料の参考資料4「令和6年度生野区運営方針アウトカム指標改定」をご覧ください。令和6年度の運営方針のアウトカム指標を改定した一覧となっています。こちらのほうは全部で6ページあるんですけども、5ページの「リノベーションまちづくり」と「生野区シティプロモーション」のところをご覧ください。あと、今先ほど申し上げました、「令和7年度生野区の取組(案)について」の、11ページの一番下の4のアウトカム指標のほうも合わせてご覧ください。まず、「リノベーションまちづくり」ですが、変更前は、区民のアンケートで生野区のまちに地域のにぎわいや活気が出てきたと回答した割合により、測定することとしていましたが、地域のにぎわい・活気については、地価公示価格の上昇により評価を行うこととし、生野区内の地価公示価格(標準地)のうち、4か所について、前年度より上昇を目指すことに変更しています。次に、「生野区シティプロモーション」ですが、こちらも「令和7年度生野区の取組(案)について」の13ページの4のアウトカム指標のほうも合わせてご覧ください。変更前は、生野区へのアンケートで、生野区のまちに愛着を感じ、これからも住みたいと回答した割合としていましたが、シビックプライドの醸成や若年層の興味・関心を引くためには、インフルエンサーなどと協力してPRすることが効果的であるため、公民連携を活用したまちの魅力PR及び情報発信等の回数を毎年20回以上に変更しています。3つ目の若年層の転出・転入が前年より減少・増

加する状態については、測定方法が記載されていませんでしたので、「毎年4月1日現在推計人口10代～30代で比較」を追記しています。

令和7年度生野区の取組についての説明は以上となります。

また、資料2の事前質問ですけれども、まちの未来部会についての質問がありませんでしたので、説明は省略させていただきますが、他の部会に関する質問はございましたので、後ほどまたご確認をお願いいたします。会議資料として配付していますが、今回も意見交換の主なテーマを設定させていただいています。特にご意見やアイデアをいただきたいことですが、令和7年度生野区の取組(案)について、区長挨拶でも説明させていただきましたが、『生野区グローバルタウン物語』プロジェクトについてです。

事務局からの説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

○山納委員

ありがとうございました。

ということで、ご説明をいただきましたけれども、ここまでで何かご質問などありますでしょうか。

○須郷委員

須郷です。

今、事務局の説明の中で、令和7年度生野区の取組(案)についての12ページの6番、令和7年度の主な取組・予算(案)のところは特に触れられなかったんですけど、下から2番目の【「空き家」「空きスペース」を活用したにぎわい創出】が結構大きく予算を削減されているように思うんですが、それはどういうことなのでしょう。

○木村地域まちづくり課長

地域まちづくり課長の木村でございます。お世話になっております。

【「空き家」「空きスペース」の活用したにぎわい創出】のところ、空き家の利活用については、担当しております私のほうからご説明させていただきます。令和6年度・令和5年度も空き家の利活用について力を入れておりました。令和4年度以前よりは力を入れておまして、令和5年度につきましては、寺田町駅からずっと源ヶ橋温泉から続いている商店街の周辺を中心に、空き家の数を調査させていただいたところの調査費用を積んでおりました。これが令和5年度の内容です。令和6年度はそれを踏まえて調査した地域でイベントなどをいろいろ工夫してやっていこうということで、空き家を活用したイベント開催の経費等を積んでおったところでございます。一旦、この令和5年度・令和6年度で実施した取組を受けて、令和7年度は空き家の活用方法とか、所有者の方への啓発などの方法を検討する時期としたいと思っております。そういう部分で委託料のほうの経費を削減したというような状況でございます。以上でございます。

○山納委員

ありがとうございます。

ほか、質問などはよろしいでしょうか。

○平島委員

平島です。

今のところを僕も見たんですけど、6番の既に活用を開始している学校跡地について、外壁の剝離や漏水の発生等の経年劣化が生じている校舎などの改修工事を実施する。例えばいくのパークにしましたら、これは大阪市から出すんですか。それともいくのパークが出すんですかね。

○川楠まちづくり推進担当課長

まちづくり推進担当課長、川楠です。お答えいたします。

跡地活用の事業者と生野区役所、行政との費用負担の関係なんですけども、ここに書かせていただいている大規模な外壁改修であったり、屋上防水の実施であったりとか、その大規模な部分については、生野区役所、行政のほうで費用負担するというような、もともとの立て付けになってございますので、それに基づいて予算計上させていただいているということでございます。以上でございます。

○山納委員

いわゆるA工事部分みたいなことでしょうかね。B工事は借りている事業者がやってというような分担。

○川楠まちづくり推進担当課長

日常的な活用の自分たちの事業の改修部分が事業者負担。こういった大規模な躯体に関わるものは行政の負担ということで区分してございます。

○山納委員

ありがとうございます。

他、いかがでしょうか。質問はそんなところでしょうかね。ありがとうございます。

では、引き続きまして、皆さんでの意見交換に進めていきたいと思います。今日、特に2つのテーマが掲げられました。今ご説明いただいた、「令和7年度の生野区の取組(案)」について、そして、『生野区グローバルタウン物語』プロジェクトについて、ということで議論をしているということでございます。このテーマに限らずでもいいということですので、今お考えのところ、これは特に来年度、令和7年度生野区として取り組んでいくべきではなかろうかと思うことについて、自由にご発言をいただければと思います。今日は6人ですので、マイクは2回ぐらい回ってくると思っていたいただいて大丈夫だと思います。誰からいきましようか。部会長でしょうかね。部会長、お願いしていいですか。

○廣川部会長

じゃあ、区長さんからお話のあった参考資料1のところで、YouTuber が広告塔として、生野の顔となってくれたのは、すごい素敵なことだと思う一方で、やっぱりジョーブログさんがターゲットとしている層と漏れている層とかもあるから、そこに対してのアプローチとかも考えないといけないのかなと思うのと、あと、こんなグローバルなまちはないので、もうちょっと奇抜というか、おもしろい取組ができたらいいなと思います。おもしろいと言っても、具体的に何をやるかは難しいところではあるんですけど、もっとアートに力を入れるとか、古民家や長屋が多いので、つい最近も関東の人が泊まりに来た際には、やっぱりこの文化住宅だったりとか、長屋がこれだけ多いまちって結構珍しいというような話もあったので、なんかこうまとまった地域、まとまって改修とかもできたらおもしろいのかなと個人的には思っています。

○山納委員

また回ってきますが、そうですね、話しながら、アジェンダっていうんでしょうか、今日何を話し合っておこうということを、とりあえず漏れなく出すっていうことは意識しながら回していきましょうか。ほか言い漏れたことは2巡目にしますか。ありがとうございます。

じゃあ、塚本さんお願いします。

○塚本副部会長

お疲れ様です。

区長からご説明いただいたグローバルタウン物語のお話を聞いていて、すごくいい取組だなと思っていたんですけども、外国人のための飲食の支援だったり、教育だったり。今桃谷商店街で見ていると、お店をやってもなかなか続かないところが結構多くて。だから、集客まで考えて支援するみたいな。教育してお店を開業して。それでもやっぱりなかなか、飲食なんかお店できて半分潰れるっていうんですよね。10年もつ店は1割っていうぐらいなので、それでもやっぱり継続的に続けるために、集客まで支援することを考えながら、このグローバルタウン物語を考えていければいいのかなと思いました。

以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

飲食店のことでちょっと教えていただいていいでしょうか。どんなお店が、海外の人のお店も潰れているのでしょうか。

○塚本副部会長

そうですね。いろいろ外国のお店が今たくさんできているんですけども、例えば、最近、桃谷では、ネパールのお店とかが結構多いんですけども、なかなか

かやっぱり集客が難しくて。たくさんできているんですよ、ネパールのお店が。やっぱり見ていると集客に苦勞しているなっていうのがあって、地域でもっと行けばいいんですけど、なかなか地域の人も行っていないので。そこで、先ほど言われたブロガーさんを起用するのがいいのかは分かりませんが、生野区内じゃなくて、ほかのお客さんだとか、そういうことも含めて、集客に協力できることを考えたらいいのかなと思いました。

○山納委員

海外の人とか、例えば沖縄とかの人たちがお店を出すときって、自分たちのコミュニティ向けのお店を出す場合と、観光客向けというか、よその人向けにお店を出すパターンってありますよね。だから、沖縄料理屋でも都心にあるところは観光客に向けているけれど、ローカルのところにあるのは、その辺に住んでいる沖縄出身者のための店みたいなのってありますが、桃谷の場合はどんな感じですか。

○塚本副部長

桃谷の場合は、観光客は少ないと思うんです。だからどちらかと言うと、さっき言いはったほう。

○山納委員

ネパールの人のためのネパール料理屋さん。

○塚本副部長

そうそう。でもやっぱりなかなか、そこでも流行っているところと流行っていないところがあるので、そうじゃなくて、いろんなお客さんが来られるように、広告・宣伝していかないといけないし、できたら観光客も呼び寄せるような取組が考えられたらと。

○山納委員

ということですね。だから区役所として、あるいはこの区政会議としてなんだろうかね、この問題にどう取り組めるのだろうかということをいただいたと思います。

では、島本さんに振らせていただいていいでしょうか。

○島本委員

私もやっぱりグローバル化ということで、家族を呼ばれて、なかなか日本語が話せないところで、外国ルーツのこどもたちに対する支援というか、日本語を話せるとか授業以外にそういうことをやっぱり計画されているのかなと。学校内ですとか。私たちもそういう人たちとなかなか関わりが普段もてないから、お互いに理解するためにやっぱり、その人たちの文化とか、私たちと交流できるような、そういうところも作っていく機会があったらいいんじゃないかなと思いますし、今すごく生野区って高齢化が進んでいるから、今ものづくりと飲食店っ

ていうので重点的に置かれているんですけど、もっとやっぱり言葉がちゃんと理解できるようになったりとか、介護のスキルとか、そんなのも身につけられたら、お互いに将来的にいいんじゃないかなと思います。なかなか難しいかなとは思うんですけど、いろんな分野でできたらいいかなと思います。

○山納委員

ありがとうございます。

言葉の問題の話をご指摘いただいたり、介護っていう分野にこの労働力が活かさないだろうかというお話などをいただいたと思います。これはどなたか、あるいは区役所の方でも、もしご存知だったら教えていただきたいのですが、介護人材と外国人労働者っていうものは、どう考えられるのか、そういう業種で働こうと思ったらどういう手続きがいるとか、もし詳しい人がいたら教えていただけると助かります。

○木村地域まちづくり課長

地域まちづくり課長、木村でございます。

生野区内に日本語学校が、私が知っているだけでは8つほどございます。それらの日本語学校の中には、経営している母体が介護事業者さんであるところがあったりしまして、その日本語学校を卒業すると、ある一定程度、介護人材のほうへの就職というものを意図した試験とか、勉強を進めているような事例は聞き及んでおるところでございます。

○筋原区長

先ほど、入国管理局との連携ということで申し上げたんですけど、今、山納委員がおっしゃっていただいたことも大きなテーマでして、やっぱり在留資格が今結構国でも大きく動いていますので、これから外国人の方が日本で働くにあたっては、どういう在留資格で、どういう手続きが必要でということの講習会とか、そういうのも入管局と連携して開いていただいて、我々も、学校であるとか日本語学校なんかもその必要があると思うんですけども、そういう機会を設けてしっかり知識も習得しながら対処していきたいと思っております。

○山納委員

もう一つ教えていただけたらと思うのが、日本語学校が8つあるというお話でしたが、多分ネパールの人たちの今の状況って、単身でやってきてインド・ネパール料理屋さんで働いていたけど、コロナも一段階して家族を呼び寄せたっていう状態になっているんだとすると、こどもはいきなり日本語がしゃべれないけれどいるっていう状態になっていると。その子たちも日本語学校で学べるようになっているのかどうかとか、ご存知だったら教えていただいていいでしょうか。

○木村地域まちづくり課長

すみません、不確かな情報になってしまうかもしれませんが、基本的に日本語学校は、10代後半から20代前半、稀に20代後半の方がいらっしゃるというふうに聞いておりますので、お子さんの幅によっては、日本語学校のそもそもの入学要件に合致していないようなこともあろうかとは思いますが。

○山納委員

つまり、小学生とかでやって来ていると。その子らがお金を払って日本語を習うのかっていうことをケアできているのかどうかということが気になります。

○筋原区長

小学生なんかは基本的に、大阪市の教育委員会で日本語指導のシステムはあるんですけども、今それが、人数が急増してきているので、だんだん一人一人の児童にかけられる時間が少なくなっていっているんですよ。ですので、例えば何十時間で最初の日本語の指導があったら一旦終わりとか。何十時間ぐらいで日本語を話せるようになるわけがないので、その部分というのは、NPOの支援団体とかがケアして、また、区役所と連携協定を結んでいただいている日本語学校の先生が、実際に小学校・中学校に来ていただいて、それで母語でお話ししたり、勉強の指導を見てくださったりというようなことを、今していただいているということですね。ですので、それを拡充していくための基金も必要かなと思っています。

○山納委員

ありがとうございます。

それでは、次にまいりましょうか。須郷委員にお願いしてよろしいでしょうか。

○須郷委員

須郷です。

今、日本語学校の話が出たのでお話ししてもいいですかね。私は、林寺第九振興町会の町会長をしているんですが、9月末に突然、九町会内の空き家を買われて、聞いているところによるとネパール、スリランカ、バングラディッシュの方なんですけど、いきなり50人ぐらいの生徒さんが来られました。当初は校長の家であり事務所っておっしゃっていたんですが、いくつもの二段ベッドをダーッと入れていたりして、それはちょっと変でしたし、50人ほどの生徒さんが出入りするんで、近所の方から「会長、ちょっと気になるんで」って言われたので、覗きに行っただけですね。そのときに工事の方がいらっしゃって、「ここは校長宅と事務所です」っていうんですね。たくさんの方が出入りしていて工事をガンガンやられていて気になったので、例えばアスベストの問題であるとか、消防法の問題とかいろいろな点をきちんとしてほしいとお願いしたんですが話が通じないんですよ。

○山納委員

日本人じゃない。

○須郷委員

いや、日本人です。10月から美章園の駅の南側のビルを1棟借りて学校をスタートされていました。そこを実際に見にも行ってきましたが、要は買った方がいいが改築ができていない、許認可も下りていないところに、50人もの生徒さんを住まわせているわけですよ。そんな状態では、町会としては怖いんで「ちゃんとしてください」とお願いをしたんですけど、なかなか取り合ってもらえないし、質問書を手渡しても1か月以上もほったらかされて、九町会の皆さんが不安になっているので「住民説明会をとにかく開いてください」とお願いして1か月半後ぐらいですかね、やっと開いてくださいましたけど、資料の1枚もないんですよ。口頭でダーッと自分の日本語学校の説明だけして、こっちが質問した20項目ぐらいをちゃんと文書で渡していますけど、何にも答えてくれなくて。結局その住民説明会に、5、60人集まってくださったんですけど、皆さん怒ってしまって、「こんなじゃ話にならん」「改めて代表者にも来ていただいてもう一回やれ」ということで無理やりおさめた形になりました。何が言いたかったかっていうと、グローバルタウンの話であるとか、生野区が多文化共生に力を入れているとかっていうことで、自分たちの町会にそういうところがあるんだったら、きちんとした対応をして一緒にやっていけたらいいなと思ったので、いろいろ話し合いもしようとしたし、電話やメールで色々やりとりをしているんですけど、とにかく嘘をつく、ごまかす、ほったらかすっていうことがずっと続いているので、さすがにもう変になりそうですが、ただ怒っているとかっていうことではなく、ちゃんとしてほしいわけですよ。こどもたちには罪がないので。高い授業料を払ってき来ているのに、住むところもない、勉強もちゃんとやれてんのかなとか心配なわけですよ。そういう状態が長く続いていて、町会としては、そういう許認可が下りていないところに住まわせることはやめてほしいとお願いをしていますけど、向こうの言い方は「分かりました」、「荷物の出し入れをします」、「住むのは今までお付き合いのあるネパールとかスリランカとかの先輩方がいらっしゃるので、そこに分散して住むようにしますので、林寺には住みません」と言っていますけど、夜中、煌々と電気がついていて、話し声も聞こえていますから、泊まってないかもしれませんが、いることは確かなので、今、対応にすごく苦慮しているというか、せっかくちゃんとした対応をしてあげたいと思っているのにできない状況が続いていて非常に困っています。

○平島委員

それは、警察か消防の問題ちゃいますの。

○須郷委員

消防署にも行きました。警察にも行きました。それから、入管とも連絡取った

りしていますけど、なんていうんですかね、知れば知るほどグレーのところがあるんですね。グレーでは何もやれることができないんですよ。思いっきり違反していたら罰せられるようなんですけど、向こうの対応としてはとにかくちゃんとやっていますっていうことで、対応は丁寧なんですよ。

○山納委員

もう一回確認で、日本語学校をやっているのは日本人。

○須郷委員

日本人です。

○山納委員

日本人が経営していて、外国の人を受け入れて、ちゃんとしていない。

○須郷委員

ただし、日本語学校としてのスタートは10月からです。前の会社は、人材派遣の会社です。どうも話を聞いていたら、日本語学校でまず日本語を教える、それから1年半コースと2年コースだったと思うんですけど、その後に研修をする。そして一般企業に送り出すっていう流れのようなんです。

○廣川部会長

美章園に語学学校があって、寄宿舍みたいな感じで使っている。

○須郷委員

そうです。寮です。

○山納委員

住宅もさわるわけですね、学校が。

○須郷委員

改築しています。内装はどんどん進めています。

○山納委員

日本語を教えるだけではなく、仕事の斡旋もするし、彼らがやって来たときの住まいも提供する。

○須郷委員

だからそこを住まいとしたいんでしょうけど、私らにしてみたら住めるような状況じゃないでしょっていうことです。

○平島委員

だから派遣会社は、日本語を教えて派遣させるような会社。

○山納委員

という一連をやろうとしている事業者が怪しいってことですね。

○須郷委員

と思うんですけど、話が通じないので困っています。

○山納委員

もう一回、回ってくると思うのでお願いします。

平島さん、お願いしていいでしょうか。

○平島委員

平島です。

グローバルタウンっていう話なんですけど、話はいいんですけど、結局人がいないので、集まらないので、先ほど言っていましたように、作っても潰れる。だからやっても無駄って、これあんまり言うたら怒られると思うんだけど、今、いくのパークでも夜市を年に3、4回やっているんですけど、結局キッチンカーがよそから来て、よその人が儲けて帰っていく。地元の間人は一切儲からない。ただ単に、ここがお金落としてキッチンカーの人が持ち帰っているだけの話であって、その夜市のことでも、うち地元なんですけど、うちの町会のまち協に対しても、そういうチラシも送ってこないし、これやりますっていう広報もないし。うちらでしたら、盆踊りと考えたら、そのいくのパークの周り全部にポスターを貼っていくんですけどね。それなのにいくのパーク、彼ら自体がやることについてはポスターも一切貼らない。誰も知らない。地域の間人も知らない。それで SNS でよその間人が引っ張って。何を言いたいかというと、地域の間人を先に来さないとあかんの、SNS でこんなのやっていますと言って、よそからみんな来て、僕らがあとで分かるような状態。それと、コリアタウンの理事長とよく喋るんですけど、結局昼間、今 17 時まではいっぱいですと。「17 時以降はなんでやらないの、もっと儲かるやんか」という話を言ったときに、「もうクタクタ」やと、「17 時で限界」やと。だから 17 時までで儲けているからもういいわというのが一つと、観光客の方はやっぱりソウルの明洞で言うとな夜のほうが忙しいんですね。プサンの国際市場もそうだけど、本来大阪コリアタウンがこれだけ 200 万人も来るんやったら、めっちゃめっちゃ儲かるのに、大阪コリアタウン自体が動かないっていうのが現状なんですね。大阪コリアタウンが一番儲かる場所なのにやらないっていうのが、周りがなんぼやろうが絶対できないですわ。例えば、今里新地にいっても人がいてない。みんな潰れていっています。ネパールとかベトナムの店とかいっぱいできています。それも 10 年持ったらええとこやけど、2、3 年でいつも誰かは変わっていますね。そういう昔で言うとな屋台村みたいな、ありましたでしょ。屋台村みたいなのがあったときは、夜中 1 時、2 時まで全部どっかでみんな飯食っていたけど、今日本人全体が、多分日本人全体だと思うんですけど、生野区だけじゃなくて、19 時になったら家で外に出ない。うちの近所でも居酒屋ってほとんどありませんわ。居酒屋探すのなんかより喫茶店もない。そういう状態で何かをやろうと思ったらすごいパワーがいりますけど、言うのは簡単やけど、やっぱり人が、地元の間人が動かない。それはやっぱりお金がないからですね。昔はなんか稼いだら稼いだだけお金があったから、飲んだりとか食

うたりしとったんですけど、やっぱり今稼いでないから、自粛しているような感じですね。だから17時過ぎたら一瞬でゴーストタウンみたいな感じ。先ほどの話に戻りますが、明洞みたいに夜中0時までやるようにしたら、めっちゃ活性化すると思いますけどね。多分、だから一番起爆剤は大阪コリアタウンの人間がどういうふうにするか。そやけど、彼らに聞いたらしたくないと。というのが、僕の耳に入っているわけですね。

以上です。

○山納委員

ありがとうございました。

一巡しました。

今のお話は、お店、飲食店で盛り上げていこうという話ですが、飲食店をやる側のやる気の問題とも言えるし、上手くいかない、お客様を呼べないということであれば、経営支援の問題かもしれないです。そのことをどう考えていくかということをしかりと、足元のことをやる必要があるというお話だったかと思います。

もう一周しようと思いますが、なんとなく何を話し合っていきたいとか、何を漏らしているかというのは見えてきたでしょうか、廣川さん。お願いいたします。

○廣川部会長

人の流れが生まれているところはあるにはあるけど、大阪コリアタウンに集中してしまっているっていうのも、大阪コリアタウンがそうであったように、違う場所にも作っていったらすごく理想的だなって思いながら自分も空き家を再生しているんですけど、人の流れがあるところに、どうやって行政が絡み合っていくかっていったところが、すごく重要なポイントなのかなっていうのは思います。あと、海外の人たちの内容で言うと、ビザの関係だったりとか、自分の知識不足ではあるんですけど、多分専門職につくしかないような感じなのかなと。この前、アーティストビザで入ってきた人が、やっぱりその業種でしか働けないっていう。介護の人が語学学校をやっているっていうのも、すごく事業としては理にかなっているし、ただ、その人たちが介護じゃなくなったときの受け入れ先ってどういうふうになっているのかなっていう。選択肢が介護しかないっていうふうな形になってしまう、そのビザの関係とか、働く環境になってしまっているのではないかなというのは心配事ではあります。

○山納委員

技能研修生は、特定の技能とかの人も会社変わらないんですよ。だからそこで合わなかったら、あかん、無理みたいなことがあったりとか、誰か詳しい人いませんか。

○平島委員

それは日本独自じゃなくて、世界中みんな一緒ですよ。

○山納委員

だから職業のつぶしがきかない。介護なら介護。移民の人はそういうことなんですか。もうちょっと勉強しましょう。

では、塚本さん。

○塚本副部長

先ほどから言われている、まちづくり関連で、大阪コリアタウンって僕、もう出来上がっていると思っていて。来てる人とかも、若い女の子とかが多いイメージがあって、夜開けてもほんまに来るのかなっていうのがあって、ある意味あそこはもう仕上がっているなみたいな感じがあるので、この経営課題のやつを見ていたら、情報発信して、新しい盛り上がりを作っていくと。先ほどおっしゃられていた、住むところとか、そういうことをいろいろ考えていかないといけないんですけども、ほかにも目を向けて、いろんな魅力を作っていく、多文化だけじゃなくて、アートだとか、音楽だとか、さっきテレビで見ましたけど、奈良県がK-POPのコンサートをしたとか、そんな感じで、いろいろ文化イベントみたいなのをやって、若い人に来てもらうということをやって、考えてみたらいいんじゃないかなと思いました。

○山納委員

ありがとうございます。

では、島本委員、お願いします。

○島本委員

先ほどからの人の流れっていうのは私も大事だなと思うんですけども、すごく今、民泊なんかもずっと空き家で、生野区が増えているんですけどね。その人たちが、どこら辺でお金を落としているのかなと。飲食店とかね、この生野区内で利用されているのかなとかね。銭湯が結構あったりするんですけど、それは日本の文化やから慣れているかも分からないけど、外国人の人もそういうところを利用されているのかなとかね。もうちょっと民泊を利用されている方の流れというか、どこら辺でお金を落とされているのか、実態をもうちょっと掴んで、その流れで、お店なんかも関連づけていくとかね。実態をもうちょっと把握したほうがいいんじゃないかなと思います。

○山納委員

ありがとうございます。

では、須郷さん。

○須郷委員

実は先日、12月10日の火曜日に、生野未来学園で学校協議会というのがあつ

て、そのときに成績の報告があったんです。令和6年度全国学力学習状況調査で、教科は国語と算数なんですけど、すごく低くてびっくりしたんです。私は学校統廃合をするときに林寺地域代表として、当時の山口区長ともいろいろ話をしたり、区役所の方や教育委員会の方といろいろ話をしたんですが、最終的にはとにかく素晴らしい学校を作るんですと。だから、楽しみにしててくださいとか、ご理解くださいみたいな感じで、最終的には条例が定まってそのまま強引に進められてしまいましたけど、この3月で丸3年になりますよね。そんなに素晴らしい学校を作ると言ったのであれば、何かしらの兆しというのか、こんなふうにはいい感じやねとかってなると思うんですけど、私の町会にもお子さんを抱えている保護者の方が何家族かいらっしゃって、お父さんやお母さんとの話とか、こどもさん本人からも直接話を聞きますけど、あんまりいい話が聞けなくて。この間の会でも、こんなんであんなかっているような話になったんですけど、素晴らしい学校を作るということでスタートした大阪初の9年制の義務教育学校が、一体どうしてこういう状態なのかっていうのはすごく気になっています。話が飛ぶかもしれませんが、要は自分たちのこどもが元気で明るく、学校に行くのが楽しくて、勉強をしっかりとやる、遊びもしっかりやるっていうそういう生活ができたなら、その家族はハッピーだと思うんですね。そして、お父さんもお母さんも元気になると思うんですよ。でもこどもたちに元気がなかったら、お父さんもお母さんも、力が湧いてこないんじゃないでしょうか。私が気になっているのは、開校以来、工事がずっと続いているってことです。今の9年生のこどもさんは、3年間工事をしている中で勉強して卒業されることになるんですよ。来年以降の工事計画を私は知りませんが、いつまで工事を続ける気なのかなっていう。さっきの学力の低下もそれが原因だとは言いませんけど、静かな環境の中で勉強ができないってことは、気も散るし、嫌だと思うんですよ。だからちゃんと勉強できる環境を最低限整えてあげて、しっかりと勉強できるようにしてほしいし、あれだけ素晴らしい学校を作るって言ったんですから、ちゃんと結果を出していただかないと、皆さんものすごく真剣に検討して悩んで話し合いもして、いろいろ意見も出しましたが、結局時間切れみたいな形で強引に進んだ感じで、私は受け止めていますけど、残念でならないんです。残念で片づけるんじゃなくて、この3年間でちゃんと反省していただいて、何が原因なのか、どんなことが問題なのか、ちゃんとあぶり出して、より良い教育をして、当初おっしゃっていた素晴らしい学校を1年でも1日でも早く実現させてほしいと願ってやみません。

○山納委員

ありがとうございます。

まちの未来部会ですけれども、こどもの未来はまちの未来ということでしょうね。今の状況について、客観的なことは僕らにあまり分からないのですが、も

し区役所のほうから何かご説明いただくことがあると助かります。

○大川企画総務課長

企画総務課長、大川です。

私自身、教育の担当を以前やっていましたので、非常に身につまされるご意見だと思います。今、須郷委員がおっしゃったとおり、生野未来学園再編の前と、再編してからもずっと工事が続いている状況で、非常に児童生徒並びに保護者の皆さん、地域の方にもご迷惑とご心配をおかけしているところです。1点だけ、状況だけ申し上げますと、再編の前は、4つの小学校と1つの中学校が一緒になるということで、校舎の増築工事をしておりまして、増築だけじゃなくて古くて使えない校舎の解体もございました。再編したときに、これは言い訳にしかならないんですけれども、再編後に義務標準法というんですかね、学校のクラス編成の基準が国のほうで法律が改正されまして、今までは1クラス40人という基準だったのが、小学生については35人がクラスの上限になりまして、もともとその未来学園は、1学年3クラスの想定で校舎を作っておったんですけれども、その40人編成から35人編成に変わったことによって、4クラスになってしまうということで、また再度の増築が必要になったという経過がございまして、今も工事が続いているところです。実際に、工事中に関しまして、学力との直接的な影響というのはエビデンスはないんですけれども、ただ、実際に工事の音ですとか、もしくは運動場が全部使えないとか、そういったストレスというのにかかるのも事実があると思っております。ですので、今、須郷委員にいただきました、確かに大阪市内で初めての義務教育学校、小学校と中学校の垣根なく、9年間とおした教育をするということで、これまで進めてまいりましたけれども、義務教育学校としての目玉といいますか、メリットですね、その辺を最大限生かせるように、教育委員会のほうにも協力を求めながら取組を進めているところですので、できるだけ早くそういった成果が現れるようにというのを区役所も一丸となって取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。状況の報告だけになります。

○山納委員

なるほど。工事がいつ終わりそうかという情報は今ここにはないですか。

○大川企画総務課長

令和8年の4月から校舎共用開始の予定になっていきますので、あと来年度いっぱい。ただ、最後、外構工事だけ、確か8年度入って、残るんだったかどうか、これも記憶さだかではないですけれども、申し訳ございません。

○須郷委員

噂ですけど、中学棟の体育館の改修はしないんですかね。

○大川企画総務課長

すみません。そういった話もあったんですけど、今現在その計画として、オフィシャルになっているのかどうか、私今存じ上げませんでして、また今度、全体会のときでもご報告できればと思います。

○須郷委員

とにかく、不満が多いんですよ。だから、いい学校ができたなって、学校に行くのが楽しみだなんていう学校であったはずっていうか、私はそう聞いていたもので、それがあまりにもかけ離れていて残念でならないんです。

○山納委員

ちなみに今、国の法律が変わったことによる、ドタバタみたいな話をいただきましたが、この情報自体っていうのは多く知られていることなののでしょうか。

○大川企画総務課長

国の法律が変わったことについては、もちろんニュースにも全国的に取り上げられておりまして、あと、法律改正によって、もう一回増築が必要になるということに関しましては、先ほど須郷委員からご紹介ありました、学校協議会での話と、あと PTA の方への説明とか、そういったことはやってきたと記憶にございます。

○山納委員

では、平島委員お願いします。

○平島委員

学力の件なんですけど、僕もちょうど先月、大池小学校・中学校の説明を受けに行ったんですけど、やっぱり大池小の学力も、大阪市内に比べたらだいぶ低いと。そこで僕提案したんですけど、分からん子をそのまま中学校に上げたら、中学校やったらもっと分からんと。小学校の時点で分からん子を補習でもなんとかしていかないとあかんのとちやうかという話を言ったんですけど。例えば毎日一コマだけでもいいから作ってくれと。それを校長に言ったんですけど、その人件費とか、先生が教えるのか誰が教えるのか、それはあとの話だと。とりあえず補習はすると。それは強制じゃなくて、別にしたい子だけしたらいいと思う。本来なら補習すべき人間はしないとあかんねんけど、強制するとややこしいんですけど、要するに塾に行く金もない、何か行くところもないから、学校側の責任で、とりあえず一コマ作ってくれて、そのあとは地域の中川と御幸森が管轄なんですけど、講師を雇う場合はお互いがお金を払いあって講師を雇うとか、そういうことでしょうかと僕が提案しました。例えば地域の人間で 0B、昔先生やっていた方とか、大学生とか、今のおる人間を募集して、小学生ぐらいのレベルでやったら誰でも教えられるんちやうかという感じで、とりあえず作れと。作れと言ったけど、全然返事もないのでする気もない。九九が分からないと、因数分解も何もできない。そこを、警察じゃないけど、違反するまで待っていると。違反

する前に止めたらええのに。そういうのは分かりきっているのにそういうことやらない。だから僕がお金とかはこちらのほうで出すからと極端な言い方するけど、そういうふうに取り組んでいかないとあかんの、教育者、校長自体がそういうことに前向きじゃない。そういうことを一つと、それと、廣川さんとか、いろんな空き家を使ってやって頑張ってはるんですけど、結局今のこの人口とか人口の流れとか、いろんなものを見ると、そういうレベルじゃないんですよ。要するに、1軒建てた、2軒建てた、10軒建てた、そういうもんじゃない、今の時点やったら1,000軒単位で動かないとあかん状況なんですね。だから、やっていますっていうのはものすごく立派なんですけど、この大阪市、言うたら日本全国でだったら、もっとスピード感あってもっと動かなあかんのちゃうかなというのが現状ですね。例えば、今、古い空き家がありまして、何十年も幽霊屋敷みたいなゴミ屋敷、あれ日本の制度がまだ何やかんやんで、全部何十年動かせません。この前の台湾の地震やったら、台湾だと全部バーッと一斉に潰して、すぐ道路造るとか、そういう救急の野外テントとかをパッと張る。日本は、ちょっとずれますけど、国会議員がこの法律を改正しなさいとあかんの、そういう法律を一切ずっと何十年もほったらかし。例えば、空き家でも見たら、国会議員が要するに撤去すると決めたらいいだけで、それであとは、お金は誰が払うのか、とりあえず売ったあとでお金、持ち主が現れたら、売ったあとの分でお金を返したらいいとかね、そういう簡単な話を名義人がおれへんからとか言っている。そういうのをはっきり言って変えたらいいねん。これの縮小しているのが生野区なんですけど、そういうのも生野区で言ったら、区長にも力あれへんからね。だから、要するに東京都やったら区で力あるけど、大阪の場合は都構想じゃないから、力がないからどうしようもないですけど、だから、こういうふうに一軒一軒じゃなくて、何かしようと思ったらスピード感がない。それだけですね、僕が考えているのは。

○山納委員

ありがとうございます。

教育の話がずっと出てきたと思います。日本の小中一貫を作ったけど教育が上がっていかない。学力のことをどう考えるのか。お金出してでも講師雇うけれどってということにも応じてもらえないというお話があったと思います。それまでの話で言うと、ネパールから来たこどもたちの日本語の問題とかがあったと思います。だから、こどもたちの教育、これはこの部会の仕事じゃないかもしれませんが、やはり心配である。そこに関しての打ち手っていうのは、この中で必要になってくるのではないかなという気は聞いていていたします。国政に関することを、国会議員任せというのがいいのか、その空き家に関して、特にこの生野区が深刻な課題を抱えているのであれば、全国的にこういう問題が起きるか

らといって先んじて動く、そのための方法が何かしら見つけられたらいいのかなと、全く解決方法を思いつかないまま思った次第ですが。

ちなみに、西村委員は、何か今日お話をいただいたりすることは可能ですか。

○西村委員

西村と申します。

本当に熱い議論でとても勉強になりました。いろいろと思うところはありません、私は大池橋で生まれて育って、今いう生野未来学園の一つでもあったり、いろんなところに関連していて、介護の仕事もしていたりとかするんですけど、まちの未来ということでは、大阪コリアタウンが繁栄するのはいいんですけど、そこにも結局地元にはお金が落ちてないという話もありましたけども、やはり大阪コリアタウン以外のところが栄えるようなね、私地元だから言うんじゃないんですけど、やっぱり生野区の地図を見たときに、中心は大池橋なので、そこにつながるような何か政策も一つあってもいいのかなと思っています。一条通りの商店街なんかずっと商店街の名前は変わっていきまんですけども、大阪コリアタウンから勝山通りまでずっと続いていますけども、実際、御幸森小学校から南のほうがほとんどシャッター街になっていたりとかして、連携もできていないのが現状です。それから石川県の輪島のほうに私、この間11月に3回目の支援に行って、仮設住宅をずっと回ってきたんですけども、そこでも今問われているのは、コミュニティづくり、お年寄りの孤独死とか災害関連死がすごく増えているので、それを防ごうというので仮設住宅を毎日回っていたんですけども、今輪島では4か所、まちづくりセンターっていうのを11月から地鎮祭を始めて、作っていかようとしています。そこにお風呂とか食堂とか作って、まちの人たちが閉じこもりにならないような。でもそれは、輪島は本当にすごく今、顕著な地震のあとの大雨で、皆さん気落ちしていて、いくら解体が進んで空き地は増えていても、建て直そうという方はほとんどいないんですよ。気力なくなっていて、恐らく100件ぐらい私も回りましたが、建て直すという方は2件ぐらいしかなかったんですけども。そういうとても二度のひどい災害で、皆さん打ちのめされているんで、余計そうなんでしょうけども。本当に生野区においても、少子高齢化ということは、日本全国の中でもこの生野区っていうのは顕著なところだと思いますので、やっぱりそれに対して外側から来てくれる人もありがたいんですけども、やっぱり生野区に住んでいる人たちが、コミュニティをもっと昔のように活性化してって、生野区に住んでいてよかった、生野区に住みに行こうかという人が増えるような、そんなことになるようなところにも力を注いでいたきたいなと思ったりいたします。とりとめのない話ですみません。

○山納委員

ありがとうございました。

ということで2巡お話をいただきました。まちの未来部会ということで、外国の人がどんどん増えてきている、実は外国の人も課題を抱えている、その課題に寄り添いつつ、このグローバルタウンにどうやったらなっていけるのかというお話から入りましたけれども、実は今のこどもたちの教育ってということに関してもだいぶ不安があるというお声もいただきました。少子高齢化であったり、外国の人が増えているということ、いろいろありますが、一言で言うと多分分断が進んでいるということでしょうし、区役所として示していただいているビジョンがあるものの、私たちは学力が及ばないこどもに一体どうアプローチしていいのか、日本語がわからないネパールの子にどうアプローチしていいのか分からないという状態のまま、悶々としている。さっきのいつの間にか改装されて50人ぐらい住んでいる、その違法かもしれない建物に関してどうしたらいいか分からんっていう状態だということがよく分かりましたし、それに関してどうこの分断を止めていけるのか、自分たちが多少おせっかいながらも、この状況を変えていくときに、何ができるのかっていうことは話し合い続けることが必要なかなと個人的に聞いていて思いましたが、感想でございます。

ということで、時間がいっぱいになってまいりましたので、意見交換は終了とさせていただきます。今からは廣川さんのお時間です。

○廣川部会長

山納委員、ありがとうございました。

一言だけいいですか。まちの未来部会って言っているのも、希望のある会話も入れたいなっていう。あったらいいのになって思っていて、正直、この会話を未来のこどもたちが聞きたいか、参加したいかと思ったら、そういうわけでは。そういうふうな会議にはなっていないっていう。それを考えたとき、やっぱり大人たちが楽しい、何かこう未来を作っていくんだっていうような、希望のあるような会話もあっていいんじゃないのかなって少し若造ながら思った次第です。

それでは、続きまして、議事2その他ということで、事務局から連絡事項がありましたらお願いします。

○森区政推進担当課長

ありがとうございます。

皆様、お疲れ様でございます。事務局のほうから2点お知らせをさせていただきます。

まず、1点目でございますけれども、本日いただきましたご意見につきましては、年が明けまして1月17日に開催されます全体会で、部会からの報告として頂戴したいと思います。他の部会の皆様にもそういったことで共有をしていきたいなというふうに考えております。本日の内容につきましては、事務局にてひとまず整理をさせていただきます。本日、進行を務めていただきました山納委

員と調整をさせていただきますので、よろしくお願いをいたしたいと思います。

2点目ですけれども、会議の冒頭でご説明させていただきました、皆様へのアンケートでございますが、出口のところで回収させていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

私からは以上です。

○廣川部会長

ありがとうございます。

それでは、本日の会議を踏まえまして、筋原区長から一言お願いします。

○筋原区長

皆さん、長時間にわたりまして、非常に熱心なご議論を本当にありがとうございました。

いただいたことで、少し補足説明をさせていただきますと、まず、塚本委員からも、お店が続かないのでお店を継続できるような支援が必要じゃないかということをおっしゃっていただきました。これについては、継続ということと言うと、今、大阪市内で一番地価が上がってるのは蒲生四丁目なんですけれども、ここは和田欣也さんという方が30店舗以上を一人でマネジメントして、30何店舗が定期的に店主会議を開いて、そこでお客さんを紹介し合って、それで30何店舗のお客さんが回るということで、非常に収益を確保されて、その30何店舗がまだ1店舗も潰れたことがないという、非常に素晴らしい成果を出しております。生野区も今、「EXPO いくのヒートアッププロジェクト」、万博の一緒に盛り上がろうということで、これで100のプロジェクトと一緒にやりましょうという形で、いろいろなものづくりの方も、飲食の方も、一緒に交わってそういう場を作って、かなり盛り上がったところでございます。こういうような形で、実際にやっぱり生野区の方は、お店も天王寺のほうに行きがちなので、それがやっぱりかなりその中でいうと、今まで天王寺に行っていた方々が、そこで知り合いになった生野のお店に行きましょうということで行き出したり、そういうことが始まっておりますので、いわゆるそういうお客さんを、いろいろなつながり、ネットワークを作る中でシャッフルして、それで生野区でお金を落としてもらおうという思いでも、「EXPO いくのヒートアッププロジェクト」はやっているつもりでございますので、続けていきたいと思っています。

それから、平島委員からの、これは非常に本質的なご意見だと思って、大阪コリアタウン、キッチンカー、外部の人が来ても、やっぱり地域の人に来ないとか、地域のお店が出ないと地元にお金が落ちないと。まさにそのとおりだと思っています。一方で、今日本人がコロナ以降外に出なくなったという、実際に飲食業の方から、だいたいコロナ前の2割ぐらいお客さんが落ちているという話を聞きます。やっぱり、それを埋めるのは、1つは外国人観光客のインバウンド

ですね。これと呼んでこないといけないと思っていまして、一方でおっしゃるように大阪コリアタウンが夜営業をやらないというのは、実際お聞きすると、大阪コリアタウンの中でも夜やるべき、昼で精一杯、ご意見分かれているとは聞いているんですけども、ただ、毎月この夜市（ヤシジャン）、夜市ができれば、定例で、もともと昔は月に1回の夜店というのは生野区でもやっていたと思うんですけど、そんな形で毎月夜市ができると、そうすると旅行代理店と連携して、観光バスでインバウンドを呼んでくることができると見込んでいまして、まずは毎月の大阪コリアタウンの夜市（ヤシジャン）、これを実現させたいなと思っております。そういう形でインバウンドも呼びながら、ただ、100%インバウンド頼りになると、これまた大阪市内でも完全インバウンドの有名商店街もありますけど、そうなるとおもしろくなくなっちゃうので、やっぱり生野の地元食が出ないとおもしろくないので、そこはまさに、地域の方にもそういう屋台出していただいて、地域のお店も出していただいて、だから比率で言ったらどうですかね、インバウンド2割、地域色8割ぐらいが僕はいいバランスじゃないかなと思っているんですけど、そういうような形でコリアタウンの夜市の定例化というのを考えていきたいと思っています。あと、私は、大正区長、港区長、生野区長とやってきたんですけど、全部傾向で言うと、衰退が続いているエリアなんですね。たまたまなんですけど、私のやってきた区というのは、やっぱり衰退との戦いなんです。今まで空き家のリノベーションもやってきていまして、廣川さんにやっていただいている空き家のリノベーション、これは非常に意義のあることなんですけど、ただ、これも大正のときで言うと、やっぱり年に1件とか2件のリノベーションだったら衰退のスピードの方が早いんですよ。衰退に負けていくんですよ。ですので、なんとかエリア全体を活性化しないといけないということで、大正の場合は河川敷のところでタグボート大正という商業施設を特区を取って作りました。これできっかけになって近隣に2、30件お店増えてですね。大正は去年、賃貸で住みたいまち大阪で1位ということで、復活をしたわけなんですけども、やっぱり同じように衰退のスピードは早いので、だから空き家のリノベーションもやりながら、やっぱりまちがブレイクスルーする場所というのが必要だと思うんですね。だから、それは僕は常設の夜市のできる場所ということで、先ほど近鉄鶴橋駅の東口というのを申し上げましたけど、もしあそこが実際にできたら、あれ疎開道路が続いているので60店舗から70店舗ぐらいは並ぶわけですよ。だからそういうインパクトのある、やっぱりある程度の大きい開発も組み合わせないと、このまちの衰退というのは止まらないというのは平島委員のおっしゃるとおりと思っていて、コミュニティづくりも地域経済と両輪やと思うんですよ。地域経済の活性化なしでいきなりコミュニティづくりに取り組んで、それも大事なことなんですけども、やっぱり効果が出ていくというの

は地域経済とコミュニティの両方を両輪としてやっていくということが必要だと思いますので、この「『生野区グローバルタウン物語』プロジェクト」で頑張っていきたいと思っております。

それから、須郷委員、平島委員に言っていただいた、学力問題ですね。これについては、こどもの未来部会のほうのもちろん大きなテーマにもなりますので、ご意見を踏まえて、こども未来部会でも整理しながら、また全体会のほうでお話をさせていただきたいと思います。

本日は貴重なご意見、本当にありがとうございました。

○廣川部会長

ありがとうございました。

区政会議は生野区の将来について、区民同士が率直に情報交換をし、意見を語り合える場です。令和7年1月17日には全体会の開催が予定されておりますのでよろしくお願いします。

それでは、これにてまちの未来部会を終了します。皆様お疲れ様でした。